

# 日本の出生動向：1991年

廣嶋清志・山本千鶴子

## 1. はじめに

1991年の日本の出生動向を人口動態統計を用いて報告する<sup>1)</sup>。出生率の計算方法は以下のように前回<sup>2)</sup>までと基本的に同じである。したがって、統計情報部などの公表数値およびこれに基づく出生率とは以下の(1)、(2)の2点において異なる<sup>3)</sup>。

- (1) 出生数は外国籍の出生児を含む日本国内における総出生児数とし、出生率の算定にはこれを分子とし、外国人人口を含む総人口を分母とする。

人口動態統計の公表出生数(1991年 1,223,245)は日本国籍のもの(したがって、父または母の少なくともどちらか一方が日本人であるもの)に限定され、外国籍の出生(父母の国籍がともに外国)(同8,137)が除外されている(表1)。これは日本における出生数の代表値として問題があるばかりでなく、出生率の分母人口を日本人人口とするのも、外国人を含む総人口とするのも不合理になる<sup>4)</sup>。

父母の国籍(2区分)の組合せ別日本国籍出生児数は表2に示す通りで、1991年の日本国籍出生総数1,223,245のうち父母のどちらか一方が外国人であるものは1.26%である。したがって、日本人人口を分母にした場合、出生率は男で0.44%以上、女で0.82%以上過大となる。1991年の女性の合計出生率は、公表値では1.53とされている<sup>5)</sup>が、外国人女性による日本人出生分0.01以上過大で、より正確には分子に外国人を含めても後述のように1.52となる。

- (2) 率の分母となる年齢別人口は、総務庁統計局による10月1日現在推計人口そのものではなく、これを用いて算出した年平均人口とする<sup>6)</sup>。
- (3) 男女計の出生率は、各年齢の男と女の出生率を、男と女の人口を重みとして加重平均したものであるが、結果的には各年齢別の男女計の人口に対する男と女の出生数の合計の比率である。
- (4) 男の出生率において、非嫡出出生数は嫡出出生の父の年齢分布によって按分する。なお、非嫡出出生数は1991年に14,293(うち外国人701)で、総出生数1,231千の1.2%で、1991年の1.1%よりさらに増大した。

1) 人口動態統計の利用にあたっては厚生省大臣官房統計情報部の協力を得た。

2) 廣嶋清志・山本千鶴子、「日本の出生動向：1990年」、『人口問題研究』、第48巻1号、1992年4月、pp.58-65。

廣嶋清志・坂東里江子、「日本人口の出生力に関する指標：男子、女子および男女計、1970～1987年」、『人口問題研究』、第45巻3号、1989年10月、pp.29-40。

3) 一般公表統計では、出生数は日本国籍出生児数に限定され、出生率の分母は日本人(女子)人口に限定されている。また、分母人口は10月1日人口である。この方法による出生率は下記参照。

石川晃、「わが国の出生力に関する指標：1991年」、『人口問題研究』、第46巻3号、pp.67-71。

4) 国連人口年鑑(1990年版)では、日本の粗出生率を、分子に統計情報部発表と同じく日本人国籍のものを用いているが、分母には外国人を含む年央の総人口を用いて計算している(1990年9.9%)。他に、分子にこのような限定が付けられている国はない。統計情報部発表の粗出生率(1990年10.0%)は外国人を分母に含まない分だけ過大になっている。

5) 注3文献参照。

6) 年平均人口の計算方法は注2文献(1989年)参照。

表1 日本における国籍別出生児数  
Births by nationality in Japan

年次	出生児数			割合 (%)		
	総数	日本人	外国人	総数	日本人	外国人
1955	1,746,299	1,730,692	15,607	100.00	99.11	0.89
1960	1,619,175	1,606,041	13,134	100.00	99.19	0.81
1965	1,837,476	1,823,697	13,779	100.00	99.25	0.75
1970	1,947,944	1,934,239	13,705	100.00	99.30	0.70
1975	1,914,707	1,901,440	13,267	100.00	99.31	0.69
1980	1,588,632	1,576,889	11,743	100.00	99.26	0.74
1985	1,437,375	1,431,577	5,798	100.00	99.60	0.40
1986	1,388,878	1,382,946	5,932	100.00	99.57	0.43
1987	1,354,232	1,346,658	7,574	100.00	99.44	0.56
1988	1,321,619	1,314,006	7,613	100.00	99.42	0.58
1989	1,253,981	1,246,802	7,179	100.00	99.43	0.57
1990	1,229,044	1,221,585	7,459	100.00	99.39	0.61
1991	1,231,382	1,223,245	8,137	100.00	99.34	0.66

1985年から改定国籍法が施行された。外国人には非嫡出児（1990年549, 1991年701）を含む。

- (5) 女子の14歳以下の出生数（1991年非嫡出23）は15歳に加えられ、50歳以上の出生数（1991年0）はそのままとする。
- (6) 父または母の年齢不詳の出生数（父1, 母嫡出3, 非嫡出30）はそれぞれ既知の年齢分布で配分する。
- (7) 「既婚合計出生率」(ever-married total fertility rate, ETFR) を計算する。これは、合計出生率 (total fertility rate, TFR) を合計初婚率 (total first marriage rate, TFMR)<sup>7)</sup> で割ったもので、合計出生率のうち婚姻の要因を除き婚姻出生率の動向を表すためのものである。これは、年齢別初婚率と年齢別出生率が一定（初婚年齢別結婚持続期間別出生率一定のための必要条件）と仮定したとき、既婚者が生涯に持つ平均的な出生児数を意味する。したがって、合計出生率はつぎのように分解される。

$$TFR = TFMR \cdot ETFR.$$

## 2. 若年と高年で出生数増加

出生数は1991年に1,231千件となり、前年の1,229千件から2千件多くなった（表1）。したがって、1974年以後16年間続いた減少傾向が停止した<sup>8)</sup>。年平均人口123,915千<sup>9)</sup>による粗出生率は9.87%で、前年の9.89%より低下した。

このうち外国籍の出生児数は1991年には8千人を超え、総出生数の0.7%に達した。また、父母の国籍別の日本国籍の出生児数をみると、統計がとれる1987年以後母外国人および父外国人のものはそれ

7) その定義などについて下記参照。

廣嶋清志・山本道子, 「日本の婚姻率：1970～87年」, 『人口問題研究』, 第46巻1号, 1990年4月, pp.67-82.

8) 1992年推計値は121万件とされ、減少傾向は再度続いている。

9) 年平均総人口は下記参照。

廣嶋清志・山本千鶴子, 「日本の婚姻・離婚の動向：1991年」, 『人口問題研究』, 第48巻4号, 1993年1月, pp.31-50.

表2 日本における父母の国籍別日本国籍出生児数  
Births of Japanese nationality by nationality of parents

年次	実数				割合 (%)			
	総数	父日本人 母日本人	父日本人 母外国人	父外国人 母日本人	総数	父日本人 母日本人	父日本人 母外国人	父外国人 母日本人
1987	1,346,658	1,336,636	5,538	4,484	100.00	99.26	0.41	0.33
1988	1,314,006	1,302,832	6,615	4,559	100.00	99.15	0.50	0.35
1989	1,246,802	1,234,626	7,390	4,786	100.00	99.02	0.59	0.38
1990	1,221,585	1,207,899	8,695	4,991	100.00	98.88	0.71	0.41
1991	1,223,245	1,207,827	10,027	5,391	100.00	98.74	0.82	0.44

父日本人、母日本人には母日本人の非嫡出児（1990年 13,039人、1991年 13,592人）を含む。

それぞれ少しずつ増加し、1991年には両方合わせて日本国籍出生数の1.3%に達した（表2）。しかし、これは夫妻の一方が外国人である婚姻の割合3.53%（妻日本人0.81%、夫日本人2.56%）<sup>10)</sup> に比べて非常に小さい。

1991年の年齢別出生数をみると第2次ベビーブーム世代に近い世代がしだいに結婚・出産を始め、ひのえうまの1966年生まれの25歳より若い年齢では、男女とも出生数が増大している。これは24歳以下の人口がしだいに多くなることによるとともに、あとでみるように、年齢別出生率が男女ともこれらの年齢では上昇しているからでもある。また、男女とも30歳代、40歳代でもいくつかの年齢で出生数の増大が引き続きみられる（後出表5）。

出生件数における平均出生年齢は、男は31.82歳から31.77歳に、女は28.92歳から28.90歳にそれぞれ低下した（後出図3）。若年の出生件数の比重がしだいに多くなっているといえる。

長期的な出生動向を女子20～34歳人口<sup>11)</sup>の規模、有配偶率、有配偶出生率の動向によって説明したものが表3である。1970～1991年の出生数減少には、1) 有配偶率の低下、2) 女子人口の減少、3) 有配偶出生率の低下がこの順に寄与していることがわかる<sup>12)</sup>。

### 3. 合計出生率は女は1.52に低下、男は1.48 に上昇、既婚合計出生率はさらに低下

合計出生率は、男は1970～1990年にかけて、2.18から1.47まで低下してきたが、1991年にはわずかに上昇し、1.48となった。女は1970～1991年において2.13から1.52まで低下傾向が続いている。男女計の合計出生率は男のそれを反映して低下は止まり、1.50になった。

これに対して、既婚合計出生率は男は1980～91年に2.15から1.91へ、女は1985～91年に2.15から1.93へとそれぞれ低下した（表4、図1）。1985～87年においては、合計出生率が低下したが、合計初婚率も低下したため、既婚合計出生率は逆に上昇した。しかし、1987年以後、合計初婚率がおおむね上昇に転じたため、合計出生率の下げ止まり傾向が現れたのにもかかわらず、既婚合計出生率は大きく低下している。既婚合計出生率は合計出生率の低下にもかかわらず、1989年ごろまで2以上を維持してきたが、1990年以後は2以下に低下した。

今後、合計出生率が若干回復したとしても、合計初婚率の回復とともに、夫婦1組当たり子ども数に相当する既婚合計出生率はひきつづき低下するものとみられる。

以上の結果を、出生数について要因分解した表3の結果と比較すると、1989年以後、20～34歳女子

10) 注9文献参照。

11) 20～34歳女子の出生数が総出生数に占める割合は、1970年に94.2%、1991年に89.9%である。

12) 詳しくは、注2文献（1992年）参照。

表3 出生数および出生率の要因分解：1920～91年  
Components of births and birth rate

年次	実数 (1,000人)				率					
	出生数 Births (1)	20～34歳 有配偶 女子人口 (2)	20～34歳 女子人口 (3)	総人口 (4)	粗出生率 C B R (1)/(4)	20～34歳 女子有配 偶出生率 (1)/(2)	20～34歳 女子有配 偶率 (2)/(3)	20～34歳 女子割 合 (3)/(4)	20～34歳 有配偶女 人口割合 (2)/(4)	20～34歳 出生率 (1)/(3)
1920	2,026	4,720	5,986	55,963	0.036	0.429	0.788	0.107	0.084	0.338
1925	2,086	5,163	6,419	59,737	0.035	0.404	0.804	0.107	0.086	0.325
1930	2,085	5,543	7,107	64,450	0.032	0.376	0.780	0.110	0.086	0.293
1935	2,191	5,834	7,857	69,254	0.032	0.376	0.742	0.113	0.084	0.279
1940	2,116	5,739	8,304	71,933	0.029	0.369	0.691	0.115	0.080	0.255
1947	2,679	..	9,546	78,101	0.034	..	..	0.122	..	0.281
1950	2,338	6,689	10,095	83,200	0.028	0.349	0.663	0.121	0.080	0.232
1955	1,746	7,117	11,355	89,276	0.020	0.245	0.627	0.127	0.080	0.154
1960	1,619	7,693	12,079	93,419	0.017	0.210	0.637	0.129	0.082	0.134
1965	1,837	8,408	12,889	98,275	0.019	0.219	0.652	0.131	0.086	0.143
1970	1,948	8,927	14,211	103,720	0.019	0.218	0.628	0.137	0.086	0.137
1975	1,915	9,692	14,497	111,940	0.017	0.198	0.669	0.130	0.087	0.132
1980	1,589	8,907	13,727	117,060	0.014	0.178	0.649	0.117	0.076	0.116
1985	1,437	7,217	12,406	121,049	0.012	0.199	0.582	0.102	0.060	0.116
1986	1,389	6,909	12,103	121,672	0.011	0.201	0.571	0.099	0.057	0.115
1987	1,354	6,663	12,059	122,264	0.011	0.203	0.553	0.099	0.054	0.112
1988	1,322	6,453	12,056	122,783	0.011	0.205	0.535	0.098	0.053	0.110
1989	1,254	6,330	12,139	123,255	0.010	0.198	0.521	0.098	0.051	0.103
1990	1,229	6,111	12,186	123,611	0.010	0.201	0.501	0.099	0.049	0.101
1991	1,231	5,989	12,389	124,043	0.010	0.206	0.483	0.100	0.048	0.099

総務庁統計局『国勢調査報告』, 厚生省統計情報部『人口動態統計』による。1955年以降の出生数は外国人および非嫡出出生児を含む。有配偶人口、有配偶率は1986、87、88年は研究資料『わが国女子の世代結婚表：1950～87年』, 1989、91年は総務庁統計局『労働力調査報告』年平均による。(1)/(2)：20～34歳女子有配偶出生率は出生がこの女子からのみ発生すると仮定した出生率。これにより次のように分解される。

出生数：(1) = (1)/(2) × (2)/(3) × (3), あるいは粗出生率：(1)/(4) = (1)/(2) × (2)/(3) × (3)/(4).

有配偶率 ((2)/(3)) は低下し、20～34歳女子有配偶出生率 ((1)/(2)) は上昇しており、合計初婚率の上昇、既婚合計出生率の低下と全く逆である。1980年代末の新たな出生動向は表3の分析ではまだ示すことができないといえる。

なお、従来から合計出生率の分析に年齢別有配偶率が用いられる例が多い。たとえば、石川らは1985～90年の女の合計出生率の低下分0.221を有配偶率低下によるもの0.217と有配偶出生率低下によるもの0.004に分け、前者が圧倒的であることを示している<sup>13)</sup>。しかし、合計初婚率を使う今回の分析

13) 石川晃・坂東里江子、「全国日本人人口の再生産に関する指標（1985年～1990年）」、研究資料第272号、1992年2月。

津谷もほぼ同様の結果を得ている。

津谷典子、「女性の社会進出と出生率低下」、日本人口学会第44回大会配布資料、1992年6月。

また、この方法によると、1980～89年あるいは1980～90年においても有配偶出生率が上昇しているとされている。

河野稠果、「最近の出生力の動向について」、『厚生指標』、第37巻11号、1990年10月。

石川晃、「近年における地域出生変動の要因——有配偶構造の影響」、『人口問題研究』、第48巻3号、1992年10月。

表4 性別合計出生率、合計初婚率および既婚合計出生率

Total fertility rate, total first marriage rate, and ever-married total fertility rate

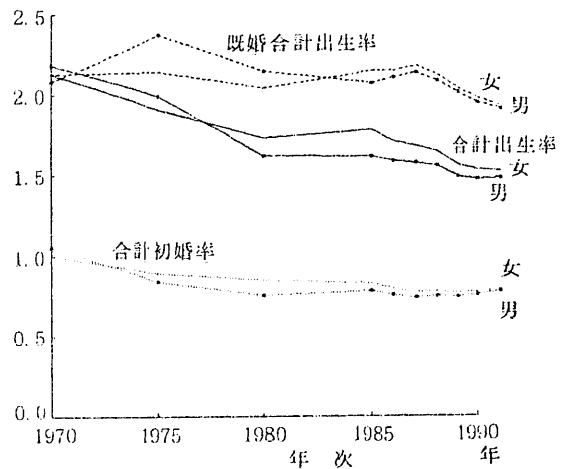
年次	男 male			女 female			男女計 合計出生率 TFR
	合計出生率 TFR	合計初婚率 TFMR	既婚合計 出生率	合計出生率 TFR	合計初婚率 TFMR	既婚合計 出生率	
1970	2.18389	(1.05)	(2.08)	2.12997	(1.00)	(2.13)	2.15603
1975	1.99339	(0.84)	(2.37)	1.90727	(0.89)	(2.14)	1.94907
1980	1.62227	0.75600	2.14586	1.73239	0.84861	2.04144	1.67587
1985	1.61587	0.77868	2.07514	1.78416	0.82950	2.15089	1.67975
1986	1.58916	0.75359	2.10879	1.70865	0.79502	2.14919	1.64671
1987	1.57583	0.73758	2.13649	1.67979	0.77081	2.17925	1.62557
1988	1.55693	0.74618	2.08653	1.64625	0.77509	2.12395	1.59918
1989	1.48978	0.74020	2.01267	1.56256	0.76665	2.03817	1.52387
1990	1.47364	0.75670	1.94746	1.52976	0.77634	1.97048	1.49999
1991	1.48098	0.77530	1.91020	1.52333	0.78947	1.92956	1.50070

既婚合計出生率は合計出生率を合計初婚率で割ったもの。したがって、合計出生率=合計初婚率×既婚合計出生率である。( )内の合計初婚率は下記による。  
阿藤誠、「出生率低下の原因と今後の見通し」、『人口問題研究』第171号,1984年7月, pp. 22-35.

によると、合計出生率の低下率 $0.254/1.78=14.3\%$ は、初婚率低下によるもの $0.057/0.830=6.8\%$ と、既婚出生率低下によるもの $0.172/2.15=8.0\%$ に分けられ、後者の寄与の方がかなり大きいことがわかる。過去の初婚の累積結果である有配偶率を使う分析では、近年における合計出生率の年次変動に対する結婚の影響を十分表すことができず、むしろ年次別の初婚率を用いる方が望ましいものといえる。

上記の既婚合計出生率の1987年以後の大きな低下は、今後1992年の出産力調査データなどを用いて直接に年次別の夫婦出生率の低下によって裏付けることができるはずである。

図1 合計出生率、合計初婚率、既婚合計出生率の推移  
Total fertility rate, total first marriage rate and ever-married total fertility rate



#### 4. 年齢別出生率はさらに上昇、女の平均出生年齢は29歳に到達

1991年の年齢別出生率は、1990年に比べて、おおむね男27～34歳、女24～31歳の生み盛りを除いていずれも上昇した。それだけ年齢別出生率の分散が大きくなった。男女とも若年齢の出生率上昇は初婚率の上昇によるものとみられる（図2，表5）。

男の年齢別出生率の最高値は、1991年にはふたたび30歳（0.125）にもどった。女の年齢別出生率の最高値は、1987年以来ひきつづき28歳（0.153，1991年）である。率による平均出生年齢は男では1990年に31.62歳で1975年の30.49歳以来1.13歳上昇したが、1991年には31.23歳へと0.39歳低下した。女では1991年に29.00歳で前年より0.05歳上昇し、1975年の27.48歳以来1.52歳上昇した。なお、男の件数による平均年齢はまだ率による平均年齢より高いが、今後これを超えてさらに低下するものと予想される。これに対して、女の件数による平均年齢はすでに率による平均年齢より低くなっている（図3）。

図2 性，年齢別出生率  
Birth rate by age and sex

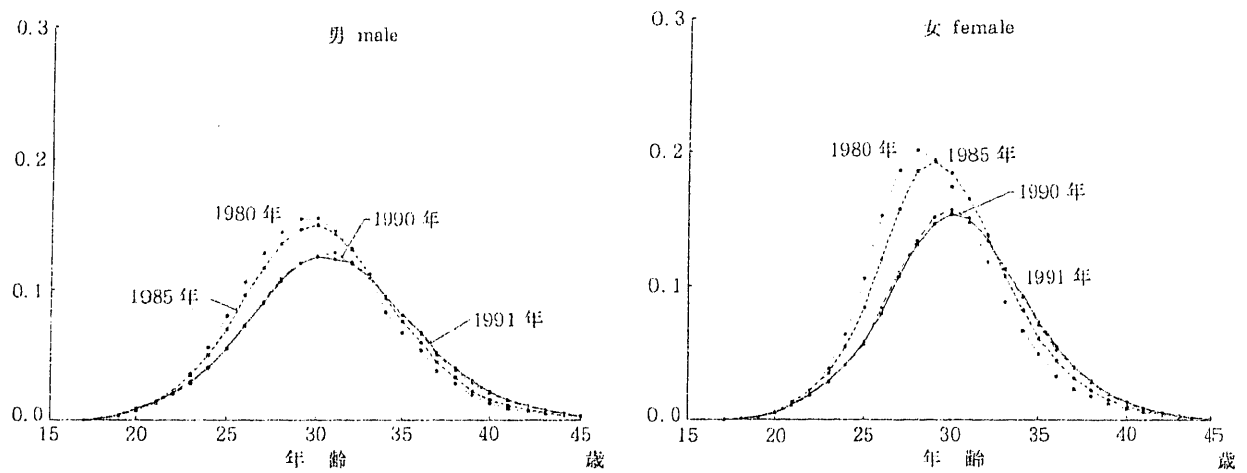


図3 平均出生年齢の推移  
Mean age at birth

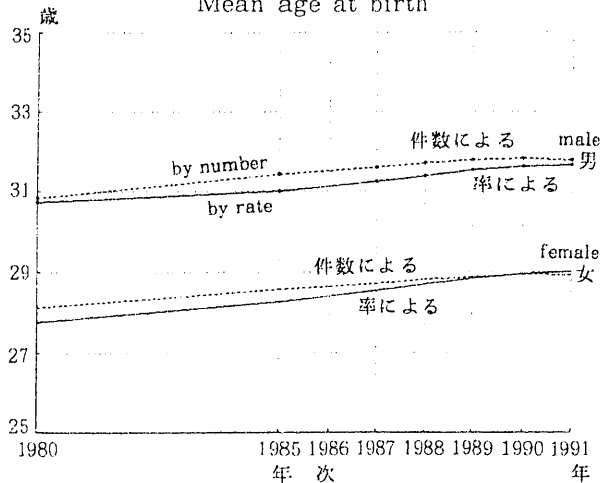


表5 性、年齢別出生数および出生率：1990、1991年

Births and birth rate by age and sex

年 齢	男 male				女 female				男女計 total	
	1990年		1991年		1990年		1991年		1990年	1991年
	出生数	出生率(%)	出生数	出生率(%)	出生数	出生率(%)	出生数	出生率(%)	出生率(%)	出生率(%)
総 数	1,229,044	20.26	1,231,382	20.24	1,229,044	19.55	1,231,382	19.52	19.90	19.87
15	-	-	-	-	113	0.12	132	0.15	0.06	0.07
16	-	-	-	-	591	0.60	622	0.65	0.29	0.32
17	21	0.02	29	0.03	1,966	1.96	2,001	2.02	0.97	1.00
18	1,265	1.23	1,463	1.39	4,605	4.69	4,897	4.88	2.91	3.09
19	3,659	3.65	4,280	4.15	10,301	10.75	10,908	11.11	7.12	7.55
20	7,981	8.18	8,548	8.54	17,353	18.64	18,099	18.89	13.29	13.60
21	13,093	13.82	13,794	14.22	26,232	28.80	27,306	29.37	21.16	21.64
22	18,554	19.95	19,872	21.08	37,471	41.72	37,847	41.56	30.65	31.14
23	24,436	28.14	27,532	29.77	48,405	57.45	52,921	59.02	42.57	44.17
24	31,457	40.50	34,624	40.05	63,326	83.84	66,632	79.19	61.87	59.35
25	47,780	54.86	42,736	55.36	93,312	110.16	80,599	106.99	82.12	80.86
26	59,970	72.25	63,139	72.83	108,070	133.78	110,493	130.54	102.60	101.34
27	73,106	90.57	74,186	89.57	118,826	150.96	117,947	145.89	120.38	117.39
28	85,282	108.46	86,043	106.65	119,700	155.94	120,695	153.29	131.91	129.69
29	93,573	119.87	94,062	119.68	114,440	150.03	114,783	149.50	134.78	134.41
30	98,900	125.29	97,680	125.15	103,490	133.82	102,320	134.14	129.51	129.59
31	101,850	127.95	97,224	123.08	88,187	122.87	87,097	112.59	120.48	117.89
32	92,966	119.50	95,742	120.22	70,098	91.68	72,293	92.53	105.71	106.51
33	84,576	108.96	84,752	108.88	54,175	71.02	56,100	73.35	90.16	91.27
34	77,265	94.76	73,471	94.60	42,410	52.96	42,294	55.42	74.04	75.18
35	67,365	80.19	65,903	80.85	32,220	39.09	32,103	40.10	59.84	60.66
36	56,632	66.12	56,294	67.04	23,408	27.71	23,903	28.99	47.05	48.19
37	45,705	50.26	44,266	51.70	16,970	18.83	16,397	19.41	34.61	35.66
38	37,270	38.57	36,459	40.10	11,995	12.53	11,884	13.19	25.61	26.70
39	29,680	28.70	28,987	30.02	8,486	8.29	8,132	8.49	18.54	19.30
40	23,483	20.93	22,512	21.79	5,717	5.14	5,465	5.34	13.07	13.60
41	17,753	14.78	17,521	15.62	3,619	3.04	3,506	3.15	8.94	9.42
42	12,750	10.74	13,693	11.41	2,071	1.76	2,131	1.79	6.27	6.62
43	7,774	7.54	9,685	8.17	975	0.96	1,116	0.95	4.27	4.58
44	3,714	4.96	5,583	5.43	286	0.38	506	0.50	2.68	2.98
45	2,868	3.50	2,743	3.67	125	0.15	156	0.21	1.82	1.94
46	2,420	2.60	2,213	2.71	65	0.07	59	0.07	1.33	1.38
47	1,668	1.80	1,808	1.95	23	0.02	26	0.03	0.91	0.98
48	1,273	1.35	1,269	1.37	8	0.01	9	0.01	0.68	0.69
49	806	0.89	918	0.98	5	0.01	4	0.00	0.45	0.49
50	555	0.68	655	0.73	-	-	-	-	0.34	0.36
51	355	0.47	426	0.52	-	-	-	-	0.23	0.26
52	282	0.35	300	0.40	-	-	-	-	0.17	0.20
53	232	0.28	229	0.29	-	-	-	-	0.14	0.14
54	193	0.24	201	0.25	-	-	-	-	0.12	0.12
15 - 19	4,946	0.96	5,772	1.13	17,576	3.60	18,561	3.84	2.25	2.45
20 - 24	95,521	21.24	104,370	22.19	192,787	44.45	202,806	44.71	32.63	33.24
25 - 29	359,711	88.27	360,166	88.71	554,349	139.55	544,516	137.39	113.58	112.76
30 - 34	455,567	115.19	448,869	114.45	358,360	92.29	360,103	93.64	103.81	104.15
35 - 39	236,652	51.37	231,910	52.87	93,078	20.45	92,418	21.35	36.00	37.22
40 - 44	65,474	12.38	68,995	12.39	12,669	2.42	12,725	2.31	7.42	7.37
45 - 49	9,035	2.00	8,950	2.06	226	0.05	254	0.06	1.02	1.05
50 - 54	1,617	0.40	1,811	0.44	-	-	-	-	0.20	0.22
55 - 59	413	0.11	419	0.11	-	-	-	-	0.05	0.05
60 - 64	80	0.02	97	0.03	-	-	-	-	0.01	0.01
65 - 69	25	0.01	19	0.01	-	-	-	-	0.00	0.00
70 - 74	3	0.00	3	0.00	-	-	-	-	0.00	0.00
75歳以上	1	0.00	2	0.00	-	-	-	-	0.00	0.00
合 計	1,229,044	1.473.64	1,231,382	1.480.98	1,229,044	1,529.76	1,231,382	1,523.33	1,499.99	1,500.70
平均年齢	31.82	31.62	31.77	31.66	28.92	28.95	28.90	29.00	30.27	30.33

出生数、人口に外国人を含む。人口は年平均人口。総数行の率は総人口に対する率。合計行の率は合計出生率。男女計欄の出生率の分子は男及び女の年齢別出生数の計。したがって、男女計の総数行の出生率は粗出生率の2倍。